

第21回環境情報科学センター賞 受賞者

特別賞

受賞者：仙田 満 氏（(株)環境デザイン研究所）

**対象業績：『遊環構造デザイン』にみるこどもの成育環境
デザイン領域の研究とその環境創造**



【受賞理由】

審査図書「遊環構造デザイン」は、受賞者が、半世紀を超える探求のエッセンスを集大成したものであり、受賞者自身が放送大学で講義された「環境デザイン論」「都市環境デザイン論」「産業とデザイン」をベースに全ての講義に共通している遊環構造理論を中心に再構成し、書き下ろしたものである。

「遊環構造」とは、受賞者が、幼稚園児のための遊具の開発プロジェクトから見出した集団あそびゲームが発生しやすい遊具の構造や、子ども時代にあそんだ町や空間の思い出からその特徴の分析により、子どもたちが群れてあそぶ場の空間の構造としてまとめたもので、例えば、①循環機能があること、②その循環（道）が安全で変化に富んでいること、③その中にシンボル性の高い空間、場があること等、7つの条件をもつものとしている。

こどもの遊びと環境・デザインに関して、学術と実学を長期に実践され、1978年毎日デザイン賞（あそび環境のデザイン）、国際交通安全学会賞、著書「こどものあそび環境」をスタートに2019年日本建築学会著作賞（こどもを育む環境 触む環境）、2020年には令和2年度木材利用優良利用施設コンクール 内閣総理大臣賞（白鷹町まちづくり複合施設）など、42年間で計27件の作品等で社会的な評価を得ている。

長期にわたり、一貫してこどもの視線を大切にする環境の形成を主張され、建築家、研究者、教育者として社会に貢献し、「生育環境の研究・デザイン活動」の領域を創設した優れた業績は、まさに環境情報科学に関する学問及び技術の進歩・発展に広く貢献したものであるとして、環境情報科学センター賞の特別賞に値すると評価する。

<対象書籍>

『遊環構造デザインー円い空間が未来をひらく』（2021年 左右社：放送大学選書 pp.357）